

レスポンシブル・ケア 活動報告書 2023





保安と安全を確保し、自然環境との調和 および地域との共生を大切にする事業所をめざして

もくじ

1 事業所長メッセージ	……2
2 事業所概要	……3
3 広島事業所RC方針	……6
4 KAITEKI 広島事業所の実現	……7
5 環境保全について	……8
6 保安防災について	……15
7 労働安全衛生について	……21
8 化学品・製品安全について	……25
9 物流安全について	……25
10 地域の皆様と共に	……26
11 事業所内活動の紹介	……30
12 最後に	……33

レスポンシブル・ケア(RC)とは

化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにおいて、企業が自主的に環境・安全・健康を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う取り組みのことです。

レスポンシブル・ケア活動報告書2023は、2022年4月～2023年3月までの活動内容を対象としていますが、2023年度の活動内容も一部含みます。



1 事業所長メッセージ

私たち三菱ケミカルグループは、革新的なソリューションで、人・社会そして地球の心地よさが続いていくKAITEKIの実現をリードしていくことをめざしています。

国内主要生産拠点の一つである広島事業所は、「化成品」「樹脂」「繊維」といった、人々の生活に役立つ幅広い製品を生産しています。私たちは、生産活動を通してKAITEKIに貢献するために、次の3つを事業所のありたい姿として掲げています。

【安全環境】

保安と安全を確保し、自然環境との調和および地域との共生を大切にす事業所

【技術・ものづくり】

夢ある技術・製品を生み出し、新たな価値を発信する事業所

【マインド】

働く人ひとりひとりが誇りと熱意を持ち切磋琢磨して成長し続ける事業所

このありたい姿の中で【安全環境】を実現するために「保安安全」、「環境保全」、「品質保証」、「化学品安全」、「物流安全」を5本柱とするRC(レスポンシブル・ケア)活動を展開しています。

私たちのRC活動を皆様へご理解いただけるよう「活動報告書」を発行いたしました。本報告書をご一読いただき、取り組みについて忌憚のないご意見及びご感想をお寄せいただくと幸いです。

最後に、私たちは多くのステークホルダーの皆様を支えられて、事業所を運営しています。皆様から信頼され愛される事業所をめざして取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

三菱ケミカル株式会社広島事業所

事業所長 清水 和博

三菱ケミカルグループ

三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社の総称です。

KAITEKI

KAITEKIとは、「人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと」を表し、環境・社会課題の解決にとどまらず、社会そして地球の持続可能な発展に取り組むことを提案したMCGグループオリジナルのコンセプトです。

2 事業所概要

広島事業所は、1933年にレーヨンステープルのメーカーとして設立された新興人絹株式会社の工場として当地に誘致を受け、我が国初のレーヨンステープル工場としてスタートしました。

以来、その生産品目を拡大し、現在では合成繊維(アクリル繊維)、合成樹脂(アクリル樹脂、ABS樹脂)等を原料から一貫生産する、三菱ケミカルグループの中核事業会社の主要生産拠点として重要な役割を担っています。



○沿革

- 1933年 新興人絹株式会社を創立
- 1934年 レーヨンステープルの初紡糸に成功
- 1934年 大竹工場操業開始
- 1952年 社名を三菱レイヨン株式会社に改称
- 1959年 三菱ボンネル株式会社広島工場 操業開始
- 1970年 三菱ボンネル株式会社広島工場を統合
日東化学工業株式会社 操業開始
- 1983年 新合成株式会社広島工場 操業開始
- 1991年 新合成株式会社と合併
- 1998年 日東化学工業株式会社と合併
- 2009年 ルーサイト・インターナショナルと経営統合
- 2010年 株式会社三菱ケミカルホールディングスと
経営統合
- 2017年 三菱化学株式会社、三菱樹脂株式会社、
三菱レイヨン株式会社の三社が統合し
三菱ケミカル株式会社発足
- 2019年 事業所名を大竹事業所から広島事業所に改称
- 2022年 株式会社三菱ケミカルホールディングスが
三菱ケミカルグループ株式会社へ社名変更

○所在地

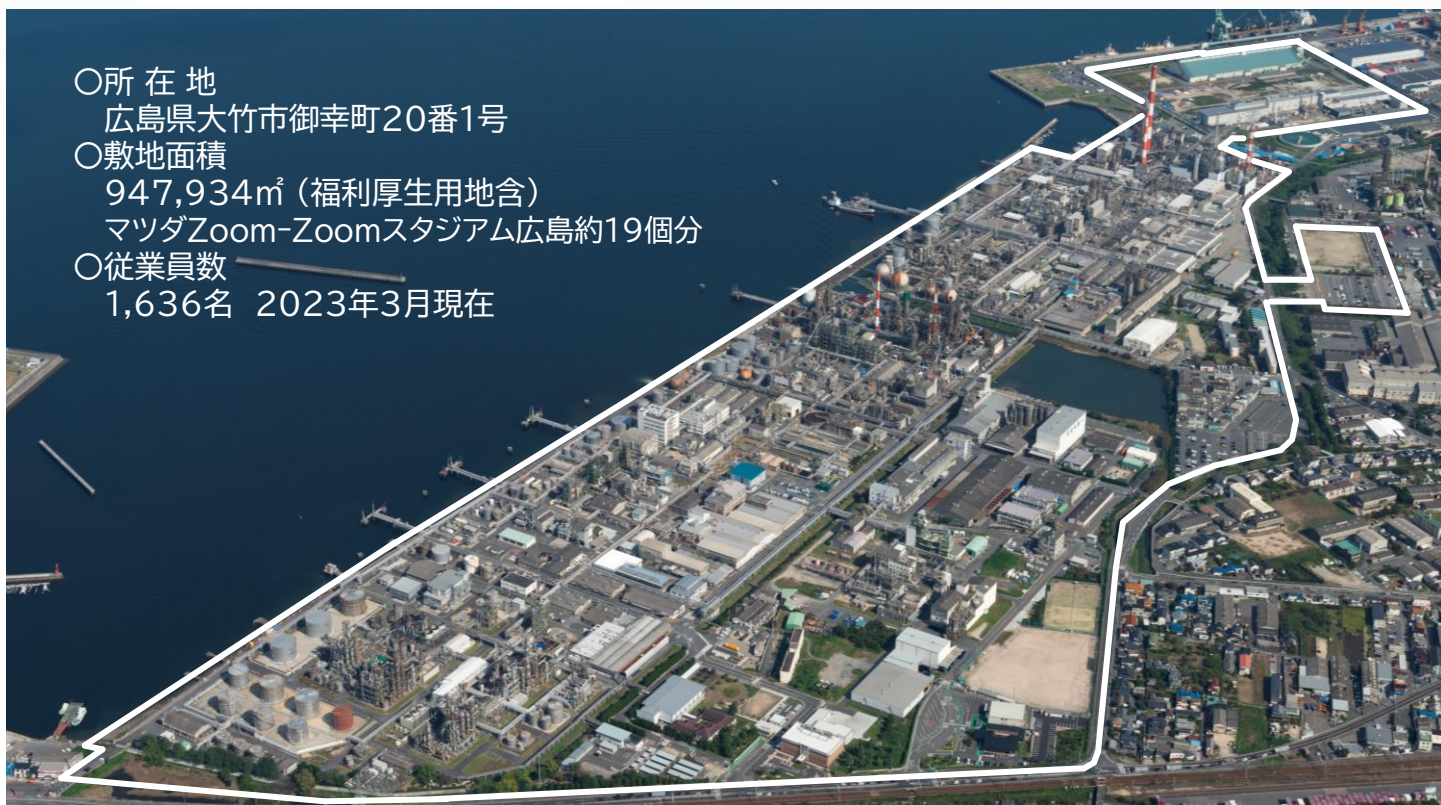
広島県大竹市御幸町20番1号

○敷地面積

947,934㎡ (福利厚生用地含)
マツダZoom-Zoomスタジアム広島約19個分

○従業員数

1,636名 2023年3月現在



○エネルギー使用量

電気 3億5,780万kwh/年

○大気排出量

CO₂ 78万9千トン/年

○水使用量

上水及び河川水 2,345万m³/年

海水 5,476万m³/年

○公共水域排水量

6,933万m³/年

○グループ会社等

- 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
- ダイヤリックス株式会社
- エムシーパートナーズ株式会社
- エムイーシーテクノ株式会社
- テクノUMG株式会社
- MCC-SGLプレカーサー株式会社
- 三菱ケミカル物流株式会社

■広島事業所 主要製品■

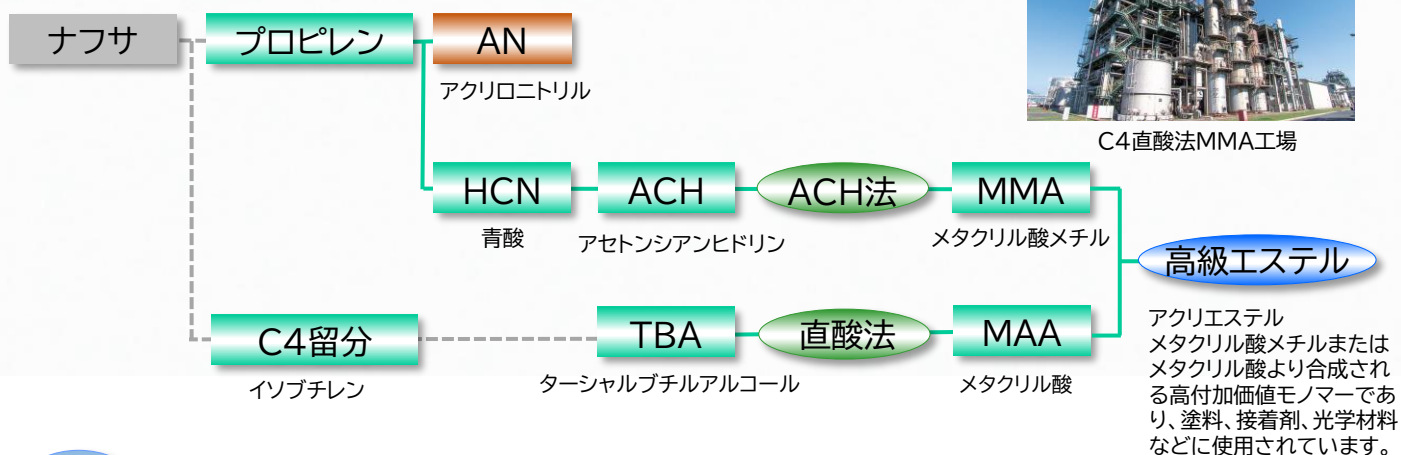
国内生産拠点の要である広島事業所は、現在「化成品」「樹脂」「繊維」といった三菱ケミカルの各種製品を生産し、主力事業所として、重要な役割を担っています。



未来を創る

化成品

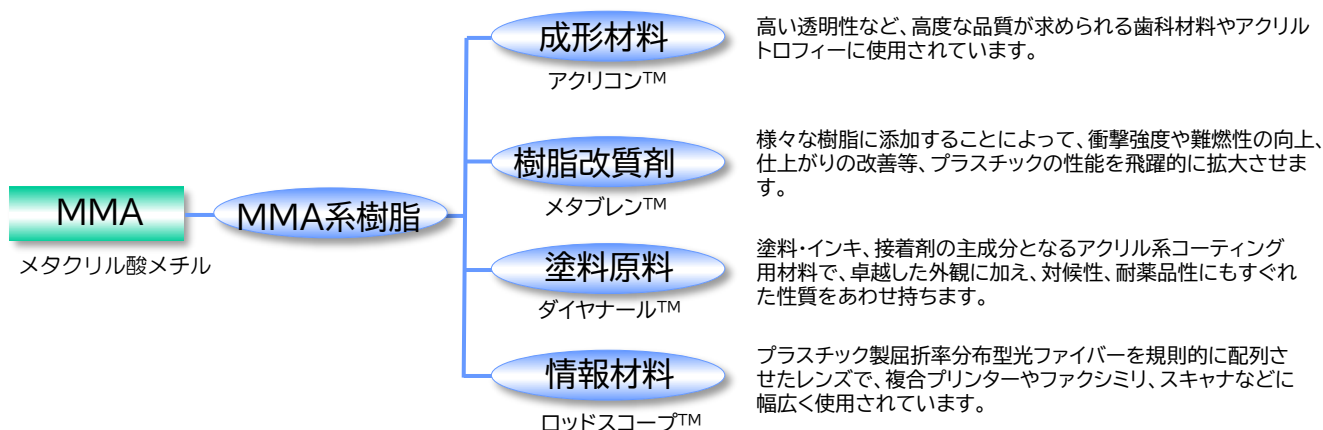
原油から抽出される「ナフサ」から作られるプロピレンやC4留分を元に、樹脂の原料となるMMA(メタクリル酸メチル)や樹脂及び繊維の原料となるAN(アクリロニトリル)を生産し、今を支える製品、そして未来を創る製品の源を作っています。



夢をカタチに

樹脂

MMA(メタクリル酸メチル)を核とした各種誘導体から樹脂製品を生産しています。多様な重合技術によって、お客様の「こんなことができればいいな」を可能にする、いろいろな機能をもった製品作りをめざしています。



ダイヤナール™を使用した船底コーティング



メタブレン™



ロッドスコープ™

■広島事業所 主要製品■

繊維

一歩先のモノづくり

AN(アクリロニトリル)からPANポリマー、原料繊維のプレカーサー、炭素繊維と広島事業所内で一貫生産し、一歩先の社会に貢献する素材を作っています。

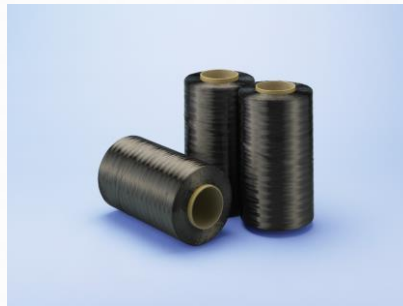


炭素繊維の原料となる特殊なアクリル繊維です。

炭素繊維は、鉄の約10倍の強度と腐食しない性質を持ち、航空、宇宙、自動車からスポーツレジャー用品に至るまで活用シーンがますます広がっています。



プレカーサー



炭素繊維



炭素繊維を使用したゴルフシャフト

■ボンネル™生産終了■

旧三菱レイヨンの祖業はレーヨンステープル事業で、その後海外からの技術導入により、アクリル繊維、アセテート繊維、ポリプロピレン繊維、ポリエステル繊維の主要化学繊維を事業化し、国内有数の化学繊維メーカーとなりました。

近年では高度成長時代を終え、繊維は成熟事業となり、新興国による、特にポリエステル繊維の台頭により、国際競争力を失った繊維素材から順次事業撤退しています(レーヨン繊維、アクリル繊維、ポリエステル繊維、ジアセテート繊維、ポリプロピレン繊維)。

広島事業所では1959年以降アクリル繊維(ボンネル™)を生産し、毛布や衣料(セーター、エコファー)などの用途向けに販売してきましたが、こうした背景からボンネル™事業も2023年3月末をもって生産を終了し、2023年度に事業撤退となりました。



ボンネル™



ボンネル紡糸機



昭和33年3月ボンネル工場着工前



昭和33年7月18日



昭和33年11月1日

3 広島事業所RC方針

三菱ケミカルは、化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動であるレスポンシブル・ケア活動（RC活動）を推進しています。私たちは「三菱ケミカルグループ企業行動憲章」に則り「保安防災」「労働安全衛生」「環境保全」「化学品・製品安全」「物流安全」を5本柱としたRC活動を推進することで、KAITEKIな社会の実現をめざします。

■広島事業所RC方針■

広島事業所 RC方針

広島事業所は、KAITEKIな社会の実現に貢献するため、本社「環境安全理念」、「環境安全に関する方針」及びプロダクトシュワードシップに係る基本方針に基づき、RC方針を以下の通り定める。また、この方針が全ての就業者に周知され理解されるとともに、適切に実施されることに努める。

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する

保安・環境事故や労働災害の防止、安全安定運転の実現と顧客の要求する品質の確保を可能にし、顧客の信頼や社会の期待に応えるために法令や社内規則を一人ひとりが理解し遵守する。

2. 事故及び労働災害のゼロを追求する

プロセスの運転管理レベルを向上させ、また設備管理の充実により、危険源に対して適切な対策を講ずることで、事故及び労働災害のゼロを追求する。

3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する

事業活動を通じ、省資源、省エネルギーの推進、廃棄物の削減など健全な環境の維持・向上に努める。さらに、新技術や新製品の研究・開発を通じて環境負荷の低減を推進し、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に貢献していく。

4. 化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理する

化学品の取扱いや製品の輸送、使用、廃棄等における事故・災害を防止するため、化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理する。

5. お客様の視点に立ち安全で高品質な製品・サービスを提供する

お客様の望む品質をベストなコスト・タイミングで提供し、品質を継続的に改善する。

6. 製品の安全輸送に取り組み、物流に関するトラブル、事故、労働災害を防止する

関係会社とのコミュニケーションを緊密にとるとともに、輸送品に対する理解と安全への感度を高め、物流品質を継続的に改善する。

7. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る

地域・社会からの理解と信頼の向上のために、地域・社会との親密なコミュニケーションを図り、開かれた事業所を目指す。

8. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

最新技術や社内外の情報を広く活用し、環境安全目標を達成するため、事業所で運用している各種マネジメントシステムを継続的に改善する。

9. RC推進に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる

「基本に始まり、基本に戻る」
環境安全理念である「安全は企業存続の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である」を遂行するために、自ら考え、気づくことを重視した教育づくりで、基本を身につけ、自ら考え行動できる人材を育成する。

2023年4月1日 三菱ケミカル株式会社 広島事業所 事業所長 清水 和博

■基本方針■

環境安全活動 基本方針

三菱ケミカルは「環境安全理念」および「環境安全に関する指針」を策定し、保安防災、労働安全衛生、環境保全の活動を推進しています。

● 環境安全理念

1. 安全は企業存続の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である
2. 環境保全と環境改善を企業の使命とし、人と地球に優しい企業を実現する

● 環境安全に関する方針

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する
2. 事故及び労働災害のゼロを追求する
3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する
4. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる
5. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る
6. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

広島事業所の目指す姿

Purpose

KAITEKI社会の実現に貢献する事業所へ

～ 持続可能な社会の発展に高い技術力とものづくり力で貢献 ～

MOS
安全環境

保安と安全を確保し、自然環境との調和
および地域との共生を大切にする事業所

MOT MOE
技術
ものづくり

夢ある技術・製品を生み出し
新たな価値を発信する事業所

Our Way
マインド
プロセスを経て
成果をもたらす

働く人ひとりひとりが誇りと熱意を持ち
切磋琢磨して成長し続ける事業所

4 KAITEKI広島事業所の実現

広島事業所ではKAITEKIな社会の実現のため、2021年度から2025年度における中期計画「O'Take現場力25」を策定し活動を推進しています。

安全文化向上、リスク管理・危機管理強化、設備管理強化を図り、デジタル技術を駆使して、ものづくり活動、人材育成、事業所競争力強化、サステナビリティ・マネジメントの取り組みを推し進めることで、KAITEKIな広島事業所を実現します。



「O'Take」

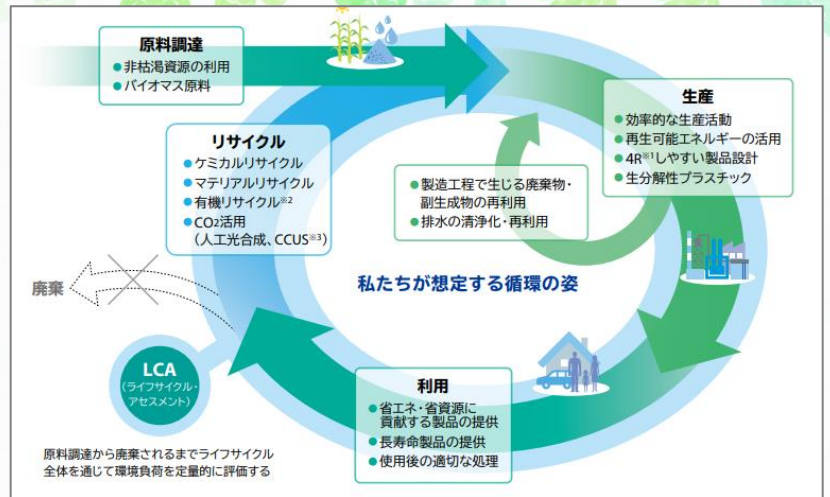
大竹の地にちなんで「おおたけ」と読みます。同時に、様々な切り口で発掘した「災害やロス」を「0:ゼロ」にしていこうという意味を込めて、「ゼロテイク」とも読みます。

5 環境保全について

■サーキュラーエコノミーへの取り組み■

世界は、気候変動や人口増大に伴う諸課題など、多くの解決すべき課題を抱えています。

特に近年は、各国の環境規制強化などを受け、サステナブルな製品に対するお客様からのご要望が日に日に高まっています。三菱ケミカルは、リサイクルを含む資源の有効活用や再生可能原料の使用などをはじめとするサーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進することにより、社会からの要請に応えつつ持続可能な成長をめざしていきます。

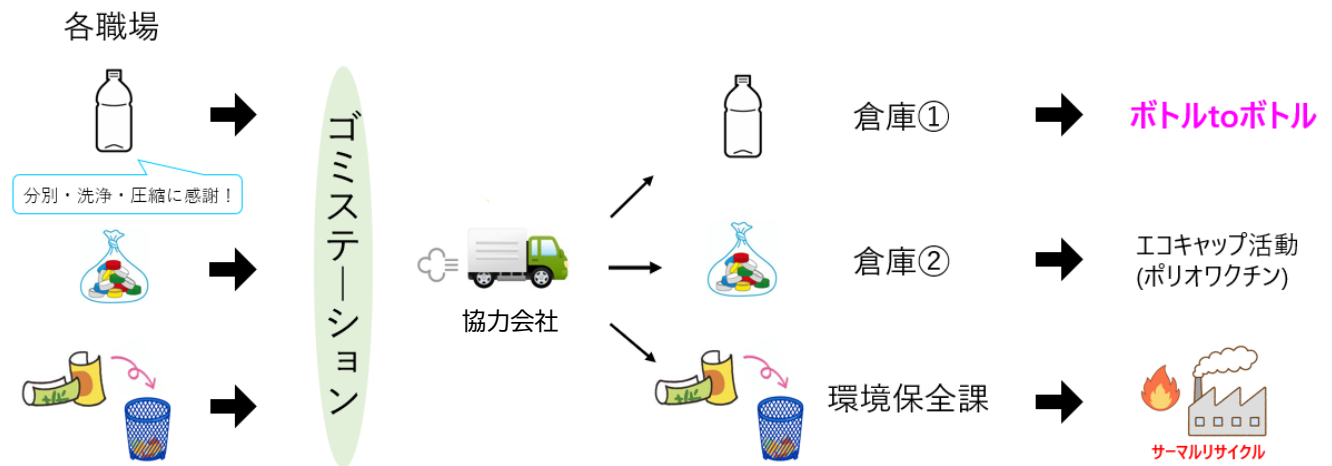


広島事業所では、サーキュラーエコノミー委員会を設置し、CO2の大幅削減、VOC（揮発性有機化合物）の大気放出量削減、排水中のCOD（化学的酸素要求量）負荷削減などの活動に取り組んでいます。

また、サーキュラーエコノミーに向けた日常的な取り組みとして、ペットボトルの循環へ着手するなど、社外との連携を強化し、様々な取り組みを行っています。

■社内における主なサーキュラーエコノミーへの取り組み ～ペットボトルの循環への取り組み～

広島事業所には焼却場があり、事業所内で発生する一般廃棄物を焼却しています。これまでペットボトルも同様に焼却してサーマルリサイクルの燃料としていましたが、分別およびリサイクルを主軸に置いたサーキュラーエコノミーへの取り組みとして、分別・回収し、リサイクル業者へ引き渡すことによるペットボトルの循環への取り組みを、2022年より開始しました。



分別後のペットボトル



ペットボトル回収の様子



運搬の様子

■GREEN SEA瀬戸内ひろしまプラットフォーム■

広島県主催の「GREEN SEA瀬戸内ひろしまプラットフォーム」の支援を受け、地域および本社と連携したリーディングプロジェクトに参画し、ペットボトルの3分別を起点としたプラスチックリサイクルに関する意識向上と、三菱ケミカルで製造しているペットボトルラベルの水平リサイクル技術の確立をめざし取り組みました。この活動は、小学校へのお出前授業を皮切りに大竹市内での分別・回収の啓発を行い、そこで集まったラベルはラベルの水平リサイクル技術の確立に向けて活用しました。また、キャップは当社の技術でペレットにし、3Dプリンターにてテーブルに変えて市内各小学校へ寄贈しました。



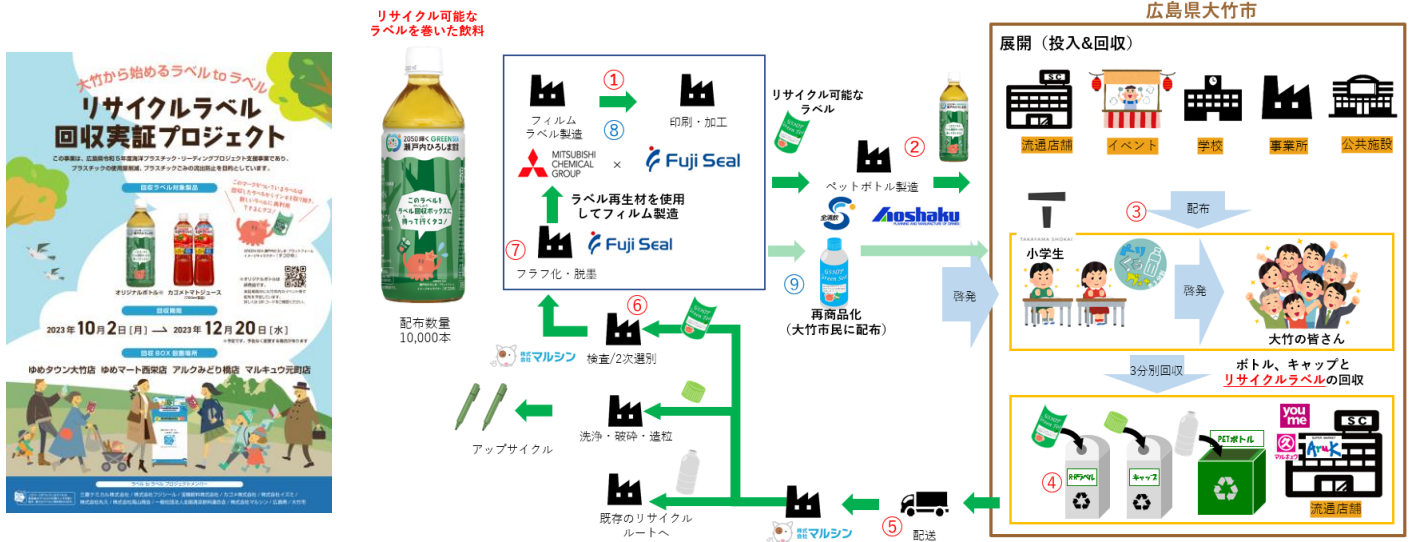
小学校へのお出前授業の様子



キャップをリサイクルしたテーブルの寄贈の様子

■リサイクルラベル回収実証プロジェクト■

2023年度も広島県の支援を受け、引き続きラベルtoラベルの実現に向けて解像度の高い課題抽出を行う事を目的に、より実装に近い形で循環プロセスを回すべく、大竹市民の皆様にもご協力をいただいています。



市内へのBOX設置



市内でのボトル配布



小学校へのお出前授業



ラベル回収BOXの作成

国際持続可能性カーボン認証「ISCC PLUS認証」の取得

2023年度に、持続可能な製品の国際的な認証制度のひとつであるISCC(International Sustainability and Carbon Certification[国際持続可能性カーボン認証])PLUS認証を下記製品で新たに取得しました。本認証はリサイクル原料やバイオマス原料などが、製品製造を含むサプライチェーン上で適切に管理されていることを担保するものです。このたびの認証取得により、マスバランス方式を活用した下記製品の取り扱いが可能になります。

三菱ケミカルグループは本認証の取得や認証製品の提供を通して、これからもリサイクル原料やバイオマス原料を使用したサステナブルな製品の社会実装に貢献していきます。

会社・拠点	製品	取得時期
三菱ケミカル株式会社 広島事業所	MMAモノマー「アクリエステル™ M」	2023年 7月
	メタクリル酸(MAA)	
	メタクリル酸エステル「アクリエステル™ B/IB/TB/HO」	
	アクリル系コーティング材料「ダイヤナール™」(ビーズタイプ)	
	樹脂改質剤「メタブレン™」	

三菱ケミカル株式会社は、ISCCの最新の規定に則り、ISCC PLUS認証の要求事項に準拠することを約束し、宣言します。

マスバランス方式

複数の原料(例:石油由来原料と廃プラスチック由来のリサイクル原料)を混合して製品を製造する際に、使用した特定の原料(例:リサイクル原料)の割合を任意の製品へ割当てる流通管理方式です。

ISO14001更新審査の実施

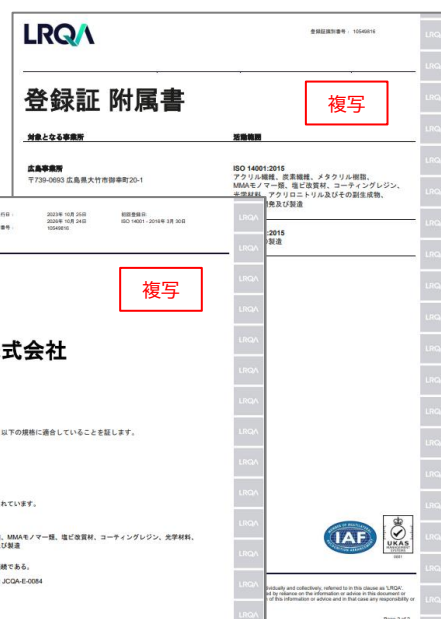
広島事業所では、環境保全への取り組みであるマネジメントシステムISO14001を1999年に認証取得し、2023年度は外部審査機関の審査を受け、環境保全活動のPDCAサイクルが有効であると認証されています。



ISO14001の更新審査の様子

PDCAサイクル

Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Action(改善)を繰り返すことで、継続的な改善を促し、常に品質や安全性を改善していくための仕組み



環境関連施設の紹介

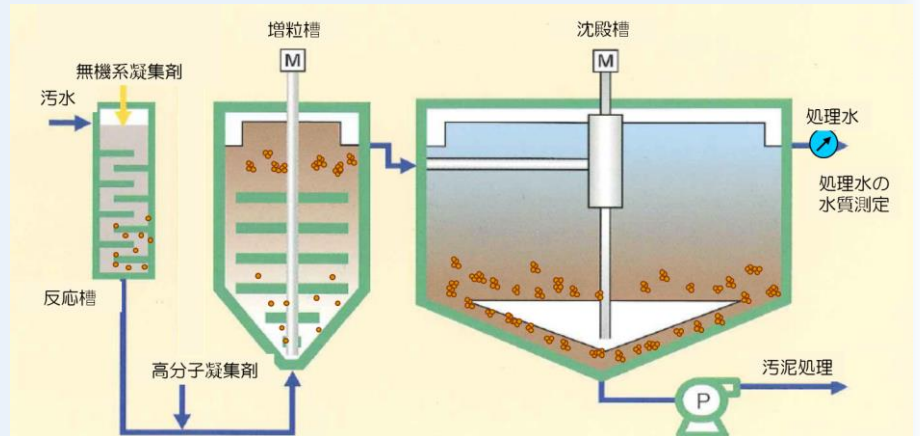
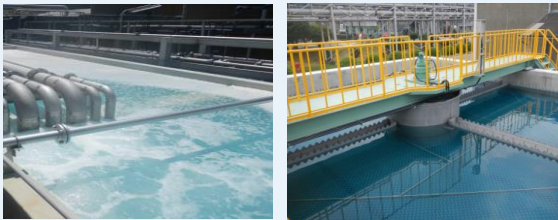
広島事業所で発生する排ガスや汚水は、事業所内の様々な設備で無害化、負荷低減、浄化などを行い、環境への負荷低減に努めています。排ガス、汚水の処理施設についてご紹介します。

凝集沈殿処理設備

微細な浮遊状物を大きな塊にして除去します。



1 凝集沈殿槽



凝集剤により浮遊物の塊を形成

浮遊物同士を集めてより大きな塊を形成

浮遊物を沈殿させて分離

回収設備

5 吸収塔



有害大気汚染物質アクリロニトリルの回収設備。ガス状の物質に水のシャワーをかけることで水に吸収させて回収し、再利用しています。

無害化設備

6 蓄熱式燃焼脱臭装置 (RTO)



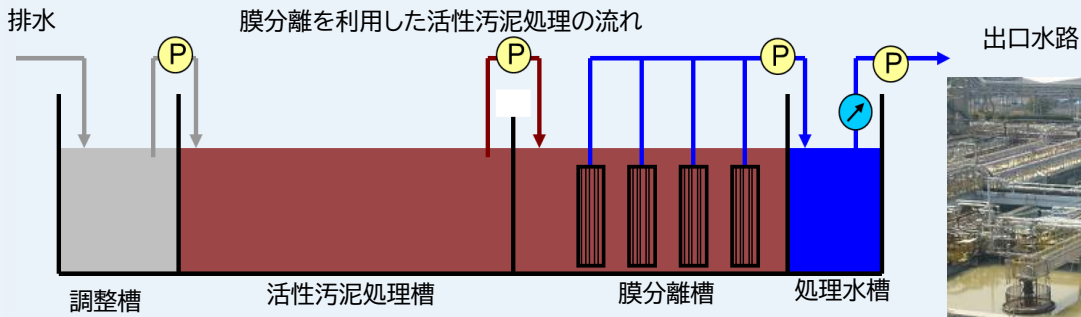
7 蓄熱式燃焼脱臭装置 (RTO)



化学物質を含んだ排ガスを燃やして分解することで無害化された状態で大気中へ排出します。

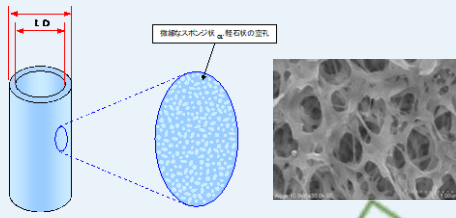
活性汚泥処理設備

微生物により排水中の汚れを分解し、浄化します。



生物により排水中に溶けた有機物を分解

活性汚泥と処理水を膜で分離



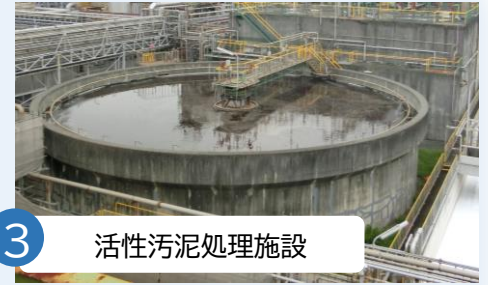
膜の拡大図



膜ユニットの様子



2 活性汚泥処理施設



3 活性汚泥処理施設



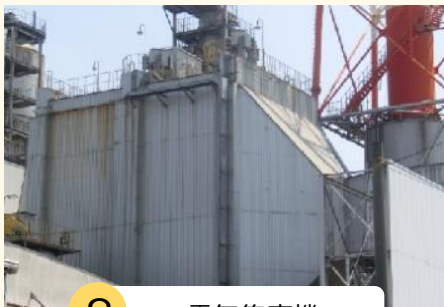
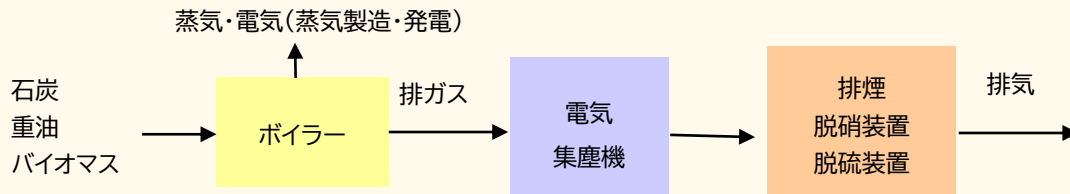
4 活性汚泥処理施設

微生物によって分解する物質が異なるため、排水の特徴に合わせて複数の施設を運用しています。

ばい煙処理設備

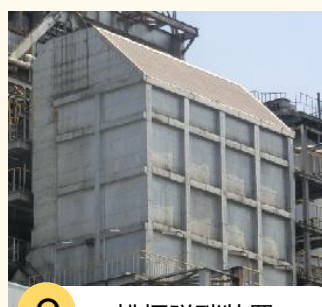
蒸気の製造や発電時に、燃料を燃焼することで発生する物質を除去します。

白い煙はほとんどが水蒸気です。



8 電気集塵機

排ガス中のばいじんを帯電させ集塵極に集めて除去します。



9 排煙脱硝装置

アンモニアと触媒を使用して窒素酸化物を窒素と水に分解します。

10 排煙脱硫装置

排ガス中の硫黄酸化物を水酸化マグネシウムで吸収し除去します。



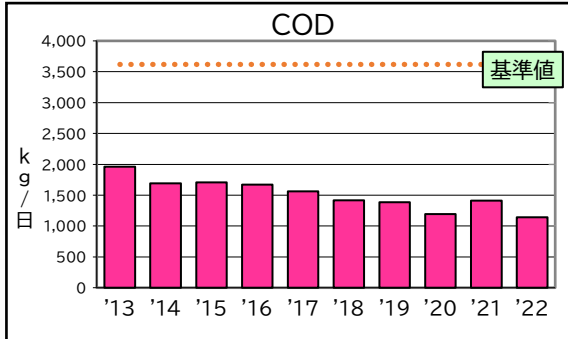
■排水の管理■

広島事業所では、工場で発生した汚水を事業所内で浄化し、公共水域へ排出しています。

汚水を浄化する施設には、汚水中に浮遊している物質等(SS)を取り除く「凝集沈殿処理施設」、微生物により汚水に溶けている汚れを取り除く「活性汚泥処理施設」があります。

汚水はこれらの施設で浄化され、公害防止に関する協定で定められた排出基準や、瀬戸内海環境保全特別措置法で許可された基準値以下で排出するように管理しています。

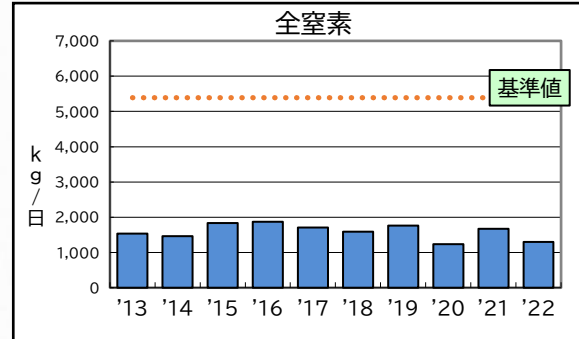
COD負荷排出量の推移



COD (Chemical Oxygen Demand)

化学的酸素要求量といいます。有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す数値で、水中の有機汚濁物質を酸化するときに消費される酸素量を示します。

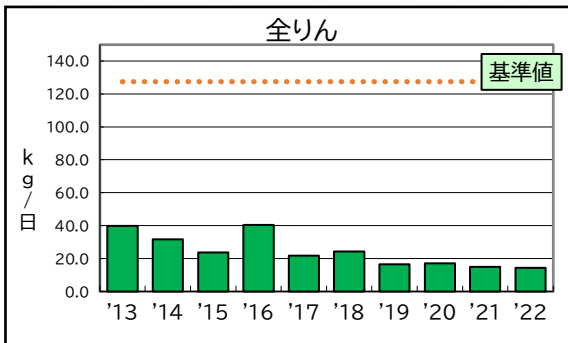
全窒素排出量の推移



全窒素

水中に含まれる窒素化合物の総量をいいます。無機態窒素と有機態窒素に分けられ、水の富栄養化の程度を表す指標の一つです。

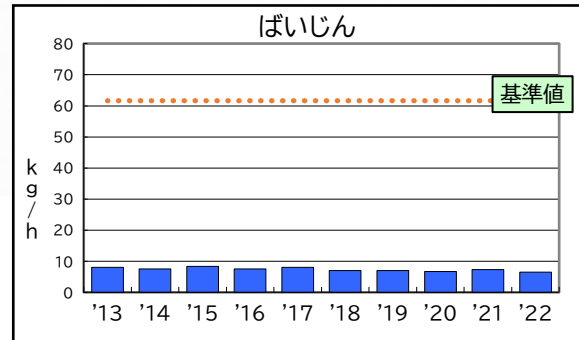
全りん排出量の推移



全りん

水中に含まれるりん化合物の総量をいいます。全りんは無機りんと有機りに分けられ、窒素と同様に富栄養化の程度を表す指標の一つです。

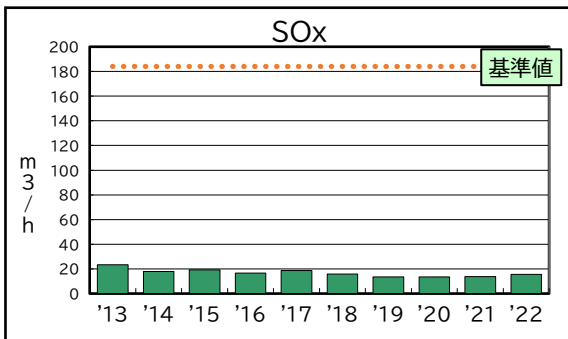
ばいじん排出量の推移



ばいじん

石炭や石油系の燃料の燃焼に伴い発生するすす等の固体粒子をいい、この内、大気中に排出されたあと、重くて地上に降りてくるものを降下ばいじんといいます。燃焼以外から発生する固体粒子は、法的には「粉じん」として区別しています。

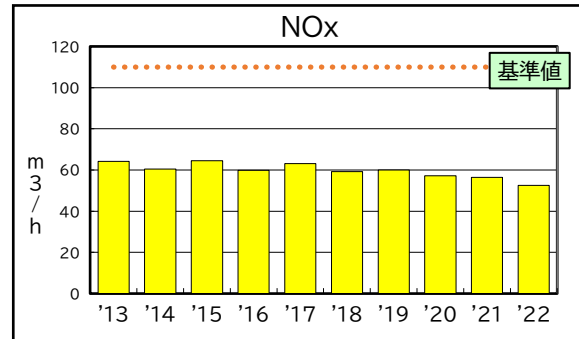
硫酸化物(SOx)の推移



硫酸化物

硫黄と酸素が結合してできるものをいい、二酸化硫黄(SO₂)、三酸化硫黄(SO₃)等があります。大気汚染の主原因と考えられているものの大部分は二酸化硫黄で、酸性雨の原因物質の一つでもあります。

窒素酸化物(NOx)の推移



窒素酸化物

窒素酸化物は、空気中で石油や石炭等の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもので、その代表的なものは、一酸化窒素(NO)と二酸化窒素(NO₂)です。光化学オキシダント発生要因の一つでもあります。

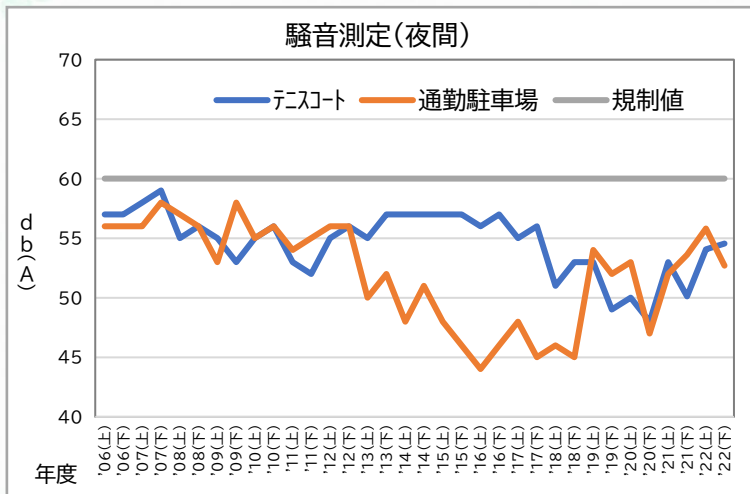
大気汚染防止法

1968年に制定され、大気汚染に関して国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全すること等を目的とした法律です。固定発生源(工場や事業場)から排出又は飛散する大気汚染物質について、物質の種類ごと、施設の種類・規模ごとに排出基準等が定められており、大気汚染物質の排出者等はこの基準を守らなければなりません。

■敷地境界の騒音及び臭気測定■

広島事業所は住宅地に近接しており、騒音や臭気に伴う法規制を遵守し、近隣の生活環境に影響が及ばないように自己管理を行っています。騒音については、実態調査や騒音対策を計画的に進めています。

騒音測定結果の推移



臭気測定結果(2022年)

物質名	規制値 (ppm)	測定結果(ppm)	
		測定値	検出下限界
スチレン	0.4	検出下限界以下	<0.1
アンモニア	1	検出下限界以下	0.1
トリメチルアミン	0.005	検出下限界以下	<0.001



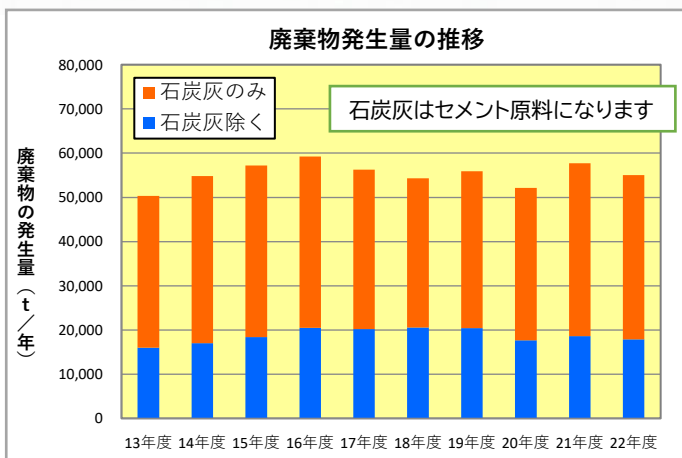
大竹市による臭気調査の様子

■廃棄物の管理■

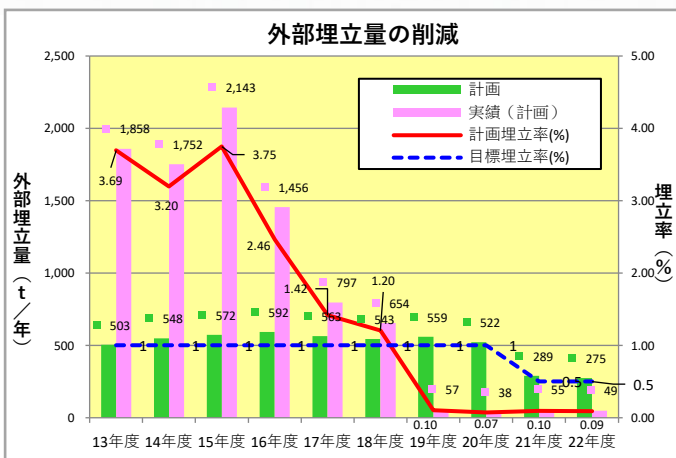
広島事業所で発生する廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正処理に努めるとともに、発生量の削減、リサイクル等を推進し、最終処分での埋立量を限りなくゼロに近づける活動を続けています。

廃棄物の処理は、法律が要求する排出事業者責任に基づき、大半の廃棄物を、事業所が保有する「焼却炉」で焼却処理を行い、外部での委託処理の際には、適正な処理業者へ委託し、法に準拠した形で処理を行っています。

廃棄物発生量の推移



外部埋立量の削減



廃棄物の処理及び清掃に関する法律

「廃掃法」や「廃棄物処理法」と呼ばれ、廃棄物の排出を抑制し、廃棄物を適正に処理して生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全・公衆衛生の向上を図ることを目的とする法律です。

排出事業者責任

廃棄物処理業者に産業廃棄物の処理を委託した場合であっても、排出事業者には処理責任があることに変わりはなく、最終処分が終了するまでの一連の処理が適切に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされています。

埋立率

廃棄物発生量に対する埋立量の割合で、広島事業所では「1%以下」を目標として掲げ、従来埋立処分していた産業廃棄物を再資源化等で埋立量の削減に努めています。2021年度からは、この埋立率の目標を「0.5%」として取り組んでいます。

事業所から排出される水や大気、廃棄物などを常時把握・監視し、今後も環境保全への取り組みを継続していきます。

6 保安防災について

広島事業所では、起こる可能性のある事故や影響度が大きい災害をリストアップし、発生時の影響範囲の最小化や、発生可能性の低減といったリスク管理活動を計画的に推進し、緊急事態に備えた危機管理の強化に努めています。また、事業所では従来から自主保安活動にも取り組んでおり、事故の防止および発災時の減災・早期回復等に努めています。

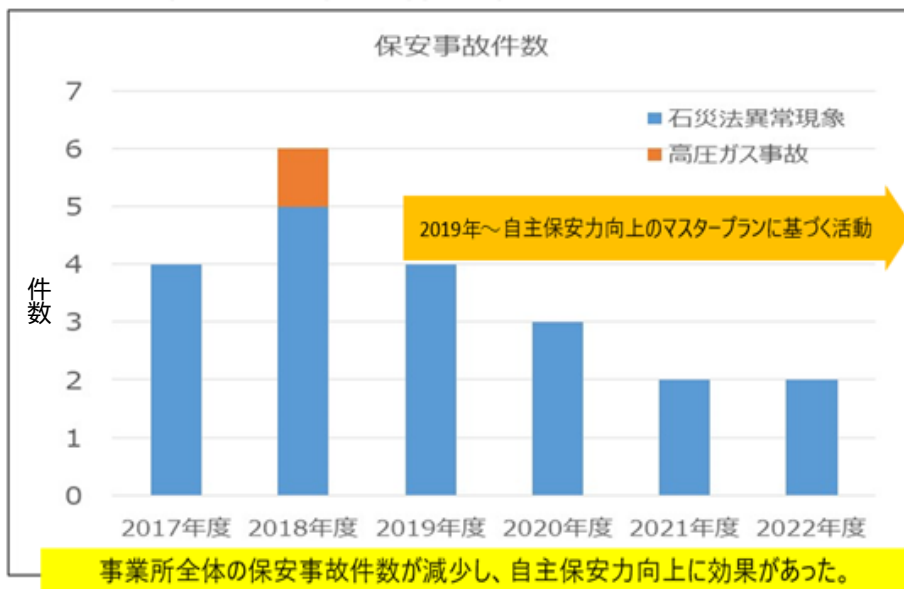
■保安への取り組み■

■保安成績■

2022年度は、所轄消防に報告義務のある事故(異常現象)が2件発生しました。発災後、設備管理に起因するものは設備対応を、また、人・組織に起因するものは教育やルールの改定を行うことで再発防止を図りました。

広島事業所では、事故トラブルに対し、原因を究明し、これに基づく再発防止対策を実施することにより事故防止を図っています。さらに所内外の事故・トラブル等の保安情報を活用・周知し、類似災害の未然防止に努めています。

事業所全体の保安事故発生状況



自主保安力向上の活動項目

安全 基盤	規則整備
	危険性の高い作業と運転の管理 変更管理 危険減の特定とリスクの管理
	方針・体系整備
安全 文化	設備管理向上
	設備トラブルの未然防止 設備管理の高度化 協力会社機能維持
	人材育成組織文化
	人材育成 相互啓発型組織
	継続的改善
	しくみと活動の確認・評価と改善
安全文化の向上	
	規則の理解と遵守 規律ある運転・作業

■社外表彰■

2022年度は、広島事業所がボイラー管理優良事業場として、個人では優良ボイラー技士等、ボイラー安全取扱推進賞、化学一圧安全取扱推進賞を受賞し、一般社団法人日本ボイラ協会より表彰されました。

優良事業場はボイラー等の安全管理体制が確立している、安全や環境等に関するシステム等の管理活動が適切に行われているなど、選出要件を満たす事業場のうち、特に優れた事業場に対し授与されます。



一般社団法人日本ボイラ協会による表彰式の様子

■自主保安の推進■

広島事業所では、高圧ガス保安法、労働安全衛生法における各種認定※1を取得しています。認定の取得には、保安安全、設備、運転それぞれの管理体制が整備されていること、また保安活動の維持管理・継続的な改善が求められます。

高圧ガス保安法では、高圧ガス完成検査及び保安検査実施者認定制度※2について、5年ごとに更新を申請し、審査の結果、経済産業大臣より認定証を受領しています。また、労働安全衛生法では、ボイラー等の開放検査周期認定制度※3について、所轄労働基準監督署長より2年及び4年の認定を受けています。今後も一層の自主保安の向上に努めてまいります。

※1 自主保安に係る認定制度

認定を取得することにより、設備の検査を自ら行うことができたり、所定の期間にわたり連続運転が可能となります。ただし、認定更新の際、事業所が自主保安を行う力を持っているか学識経験者、監督官庁及び関連協会による審査に合格する必要があります。審査において、保安管理システムの構築、リスクアセスメントの実施及び保安組織の整備等が求められます。

※2 高圧ガス保安法

高圧ガス完成検査及び保安検査実施者認定制度
(事業者自ら保安検査及び変更工事の完成検査ができる制度です。)
取得:1999年9月 更新:2019年9月

※3 労働安全衛生法

ボイラー等の開放検査周期認定制度
(開放検査の周期を最大12年間とし、その間は毎年運転時検査または停止時検査の受検を選択できる制度です。)
取得:1998年4月 更新:2023年3月

■リスク管理への取り組み■

■製造工程や作業に対するリスクアセスメントの実施■

製造工程や作業に潜む危険性を抽出しリスク評価を行い、リスクのレベルに応じた対策をとることによりリスクの低減を進めています。

リスクアセスメント

工場や研究所での危険性を特定し、それによる災害の大きさと災害の発生する可能性を組み合わせることでリスクを見積り、そのリスクの除去や低減を行う一連の安全活動です。



リスクアセスメント実施風景

■環境(排水)リスクの低減■

広島事業所では、万が一異常な排水が発生した場合でも、上流側で早期発見し、遮断・貯留し外部に流出させないという方針のもと、排水に対するリスク管理の強化に取り組んでいます。

源流管理

各工場の生産施設から排水リスクを洗い出し低減することで、事業所内排水溝への異常な排水の流出を防止します。

配管管理

事業所内に張り巡らされている配管の点検整備を実施し、配管からの漏洩の防止や、漏洩時の外部への流出リスク低減に努めています。



排水リスク低減

■保安を支える人材の育成・安全文化の醸成■

すべての従業員が安全への想いを共有した“誰も傷つかない、誰も傷つけない”事業所・製造現場をめざして、安全管理スキルを持った人材の育成、安全文化の醸成に取り組んでいます。

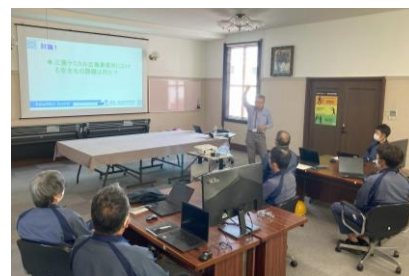
- ①CPSE育成は2020年にスタートし、これまでに10名を認定し、活躍しています。(現在18名教育中)
- ②事業所の安全優先課題に合わせて、人材育成プログラム、教育・研修体制の見直しを行いました。
- ③運転視点での安全課知識を学び、安全に関するマインドの向上を目的として、上級オペレーター層を対象に、「安全オペレーション塾」を開講しました。

CPSE

三菱ケミカルにおけるChemical Process Safety Engineer
(化学プロセス安全技術者)の略称。



第五期生のJunior SE入講校式



安全オペレーション塾の講義

■安全文化診断■

「安全第一」をスローガンとした事業所運営を行っていますが、それを日々の行動の一つ一つにおいて実践し続けていくことは決して容易なことではありません。それは、安全に対する従業員ひとりひとりの意識や事業所の風土にも関わる側面を持っているからです。自分たちが真に「安全第一」の行動をとることができるのか、安全を担保する上での課題はないのか振り返る意味で、2020年度に第三者機関による「安全文化診断」を事業所従業員全員で受診しました。

2020年度の診断結果から、「従業員ひとりひとりが互いの安全を第一に考えて行動できているか」という部分に課題があることが判明し、「相互理解」と「危険認識」という軸に焦点を当て、これまで活動を進めてきました。

2020年から実施している「事業所長対話会」や「意見交換会」を通じた情報共有やプロセス・作業リスクアセスメントの推進が保安力向上につながり、現在は事業所全体として安全文化総合指標が向上しました。

「安全文化診断」
第三者機関により診断されるプログラムであり、約100問のアンケートに対する全従業員の回答を分析することで、組織に潜んでいる課題を抽出することができるものです。

■相互理解 対話による距離感解消■

各階層での距離感解消のため、「事業所長対話会」や「意見交換会」を実施しています。事業所幹部と現場の従業員が対話することで、気軽に相談できる雰囲気づくりや心理的安全性の向上に繋がっています。

事業所長との対話会 (2022/4/8) **ボンネル課 昼専職長**

MITSUBISHI CHEMICAL GROUP Science, Safety, Life

コミュニケーションを取りながら快適な職場を目指す

本日は昼専職長にお話を伺いました。

- ・若い人とのコミュニケーションはアイデアの宝庫
コミュニケーションはお互いを解り合うために大切です。特に若い人と話していると自分達が考えつかないような良い意見や考え方に触れることがあります。その意見を取り入れ、まず一度やってみることを心掛けています。ダメなら元に戻せばいい。チャレンジを大切にしてボンネル課を安全な職場にして行きたいです。
- ・目指すのはみんなにとって快適な職場
自主保全活動によってトラブルは少なくなっていますが、**みんなが快適に仕事が出来る職場を目指して**、今後は更にいろいろな提言をして行きたいです。



自主保全活動版の前で

心理的安全性


事業所長との対話会 (2023/8/8) **繊維製造部 プレカーサー課**

MITSUBISHI CHEMICAL GROUP Science, Safety, Life

ポジティブで行動力がある人になれるよう 失敗を恐れずチャレンジしよう!!

今回はプレカーサー工務室VP会議室で実施しました！
ホースを決めてみんなで写真撮影☆
彼らの職場でも、とても開催可能です！

- 繊維製造部 プレカーサー課
思っていることを気軽に言い合っています。休暇取得やフレックス活用など残業時間管理にも配慮し、みんなで働きやすい職場づくりに取り組んでいます！
- 企画管理部
繊維製造部 プレカーサー課
ワークショップの中で参考になるグッドポイントを積極的に取り入れています。D Xツールも活用しながら、まだまだ改善できることに取り組んでいます。自分たちも変わっていかねばならない!!
- 総務管理
皆さんと充実した会話ができました
Q1: 職場はどんな雰囲気?
Q2: 挑戦していることは?
Q3: こんなのがあったらいいな・やりたいな




相互啓発(相互依存)

事業所長との対話会(2022/4/11)
化成品製造部 化成品課 B番職長

MITSUBISHI CHEMICAL GROUP Science, Safety, Life

怪我をさせない為に、作業前後の問いかけ徹底!

- ・職長としての思い
番員には絶対に怪我をさせたくない。その思いから作業前後の確認を徹底しています。作業前に確認事項や注意点、危険予知などを声掛けすることで気付きを与え、安全意識、改善意識の向上に繋がっています。部下が積極的に報告してくれると喜びとやりがいを感じます。
- ・若手の育成
若手に多くの経験を積んでもらうために、スタートアップなどできるだけ非正常作業に参加する機会を作っています。実践機会をつくるとともに自分の経験も伝えることで、迷いがなく、自信を持ってプラントを安全運転できるように成長して欲しいと思っています。



化成品課 無災害記録表の前で


報連相・問いかけKY

事業所長との対話会(2022/5/16)
炭素繊維製造部 炭素繊維課 B番職長

MITSUBISHI CHEMICAL GROUP Science, Safety, Life

成功体験を重ねることで、メンバーの成長を後押ししたい!

- ・職長としての思い
4月から職長を拝命しました。私は新任の職長として、心掛けていることが2つあります。1つ目は、メンバーとの接し方です。積極的な挨拶とメンバーとの意見交換を心掛けています。2つ目は、マネジメントについてです。高いウオリティが要求される責任のある仕事を任せることで人は成長すると考えています。ただし、任せますが放任はしません。報連相とフォローを確実に行うことで、メンバーの成功体験を増やし、メンバーの成長と働き甲斐の向上を進めます。
- ・成功体験の事例紹介
ロール巻入れや火傷リスクが伴う乾燥ロールの温度測定に対し、メンバーで意見を出し合ってサーモグラフィカメラでの測定へ変更しました。ロールから離れた位置で測定が可能となり、全てのリスクが解消されたことは、私たちの貴重な成功体験となっています。



炭素繊維課 無災害記録表の前で

人材育成

今まで関わりが少なかった他部署の人や事業所幹部を含めた異なる階層の人と対話する機会が増え、従業員のモチベーション向上にもつながっています。

またこれら情報は従業員全員が見られるようデジタルサイネージや拠点掲示板にて配信しており、事業所全体に情報共有することで良い事例を他部署に展開し役立てています。

■危機管理への取り組み～防災活動～

■防災の備え

広島事業所では保安事故・災害に対しその拡大を防止し被害を最小限にするため、発災時の緊急時連絡体制、発災時の行動・避難に関する対応を規則に定めています。

また、自衛防災組織を編成し、発災時は事業所長を本部長とした災害対策本部を立ち上げて対応しており、夜間・休日においても初動活動がとれる体制を整備しています。

大規模地震や津波、風水害の自然災害においても同様の対応を整備しています。

■防災訓練

広島事業所では自衛防災組織訓練として、所轄消防と連携した年2回の総合防災訓練と年1回の地震・津波避難訓練を実施しています。訓練後には反省会を行い、活動や資機材の課題に対し継続的に改善を行っています。

その他にも、岩国・大竹地区特別防災協議会(11事業所)による「大規模災害」に対する合同防災訓練により防災連携を強化しています。



総合防災訓練の様子

■防災機能・施設の強化

管理棟、消防棟の機能・資機材等を充実させ防災活動の強化を図っています。

管理棟による防災活動の迅速化

- 災害対策本部、防災監視室、消防棟、宿直室、及びスタッフ部門執務室を集約し、各間の動線を短縮
- 災害対策本部の常設化



災害対策本部(訓練時)

防災監視室による事業所内監視機能の確保

- 排水・有害ガス等の異常監視
- 警備(テロ等を含む)上の門及び敷地境界線の監視
- モノマータンク等の異常監視(温度・ガス検知)
- 自動火災報知機の監視
- 毒性ガス検知器の監視(関係課及び敷地境界線)



防災監視室

消防棟

- 南海トラフ地震による津波被害を回避する場所に設置
- 防消火資機材
- ① 消防車両(高所消防車1台、化学消防車2台、救急搬送車1台)
- ② 防災車両(防災指揮車1台、泡原液搬送車等3台)
- ③ 防災資機材(可搬式ポンプ、油処理剤、泡消火剤、発電機等)
- ④ 保護具(防火衣、耐熱服、空気ボンベ、防毒マスク)



消防棟外観

■最新技術を活用した取り組み～スマート保安～■

■スマート保安について■

スマート保安とは、IoT(モノのインターネット化)やAI(人工知能)などの新技術、タブレット端末やドローンの活用等、DX技術によりプラントの安全性・生産性を向上させ、事業所の保安管理レベルを強化させる取り組みです。

広島事業所でも、さまざまな技術を導入し、事業所の保安力強化に繋がっています。

広島事業所では目的に応じて様々なスマート保安技術の活用を検討・具現化しています。



ドローン



検査ロボット



ドローンを使用して配管や機器の点検を実施し、保安力の維持向上や点検作業の効率化をめざします。



■協力会社棟新設■

中門協力会社地区の老朽化に伴い、協力会社棟を新設しました。

2023年1月26日に竣工式を終え、4月1日より本格運用を開始しています。

これからも協力会社の皆様と共に

- ・防災機能の向上
 - ・協力会社とのコミュニケーション活性化
 - ・働きやすい環境づくり
- を推進していきます。



協力会社棟の外観

■ 定修工事における安全の取り組み ■

石油化学プラントは、年間を通して24時間連続で設備を動かし続けていますが、安全・安定運転を継続するために、2年ごと(一部の設備は1年ごと)に設備を止めて、点検や補修、改善を行っており、これを定期修理(定修)と呼んでいます。

2022年は大規模定修の年でしたが、安全大会やパトロールを通して、協力会社と一体となった安全活動に取り組みました。また、教育については、模擬装置を使用した危険体感教育を行い、危険に対する意識をさらに向上させました。

■ 定修中の安全活動 ■

【安全大会】

大規模定修の工事期間中に計6回の安全大会を開催し、従業員、協力会社ともに無事故・無災害への決意を新たにしました。

【パトロール】

工事安全衛生協議会や部長等が各プラントを回り、工事管理や安全管理の状況を確認し、必要に応じて指導や助言を行いました。



■ 安全に向けた教育 ■

講義だけでなく、実際に体感することで、危険に対する意識が高まりました。

【高所の危険体感教育】



【巻き込まれの危険体感教育】



■ VR(バーチャルリアリティ)技術を活用した危険体感教育 ■

心理的安全性並びに相互啓発型組織の実現に向けて、各職場にトレーナーを養成し、いつでも誰でも危険体感教育を受けられる環境を作っています。

協力会社の方にも体感していただき、事業所全体で危険に対する意識向上に取り組んでいます。



VR危険体感教育の様子

7 労働安全衛生について

■デジタル技術の積極活用■

労働安全衛生の向上にも積極的にデジタル技術を活用し、これまでにない変革(DX デジタルトランスフォーメーション)に取り組んでいます。



1つ目: データ収集・蓄積・分析・活用の技術を活用



2つ目: 製造現場の品質向上と生産性向上をめざす



3つ目: 働き方をスマートに、効率と連携の強化



各種データを集約・可視化したダッシュボードを用いて、変化の気づきや分析を行っています

■プラント安定化のためのデータ活用■

データに基づいた迅速な意思決定ができるよう、デジタルデータの蓄積と活用を図っています。

データ蓄積基盤の整備



- ・私たちの工場では、種々のデータを集めています。
- ・これらのデータをより有効に活用するための「データ蓄積基盤」を整備しています。
- ・これにより、工場をより良く理解し、より効率的に運営するための知識を詰め込んだ「データの宝庫」を作り上げることができています。

データ解析人材の育成



集めた大量のデータを活用して不具合の兆候早期発見や品質予測などを実現するためのAIを自ら構築できるよう、化学プロセスの知見を併せ持つデータ解析人材を育成しています。

■モバイル端末を使った業務効率化■

オペレータを含む従業員にスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末を配布し、業務効率化を図っています。ウェブカメラやデジタルホワイトボードなども併せて利用し、離れた場所でも迅速な情報共有ができるようになりました。

業務の効率性と連携性



- ・遠隔にいる部隊に正確に、スピーディに情報を伝達することができます。
- ・現場にパソコンがなくても、映像やデータを確認し判断することができます。
- ・紙に書いていた点検データを直接デジタル入力することができます。

便利な職場環境



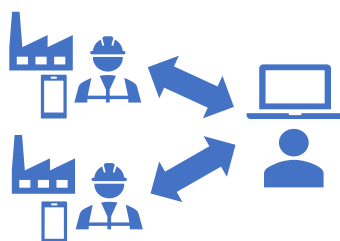
- ・アプリの市民開発により、従業員が自身のアイデアを形にすることができます。
- ・業務の改善や問題解決がスピードアップします。

「市民開発」とは、非エンジニアによる社内の業務効率化をめざした開発のことです。

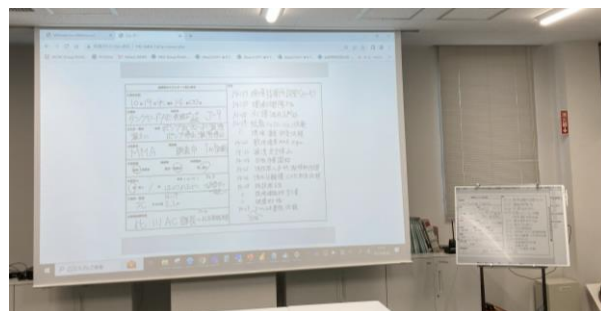


現場でホワイトボードに記入

電子ホワイトボードを使った現場と会議室との情報共有の様子。双方で書き込んだ情報が同期され、お互いの状況をリアルタイムで把握することができます。



現場と会議室でリアルタイムに情報伝達



会議室にホワイトボードの内容を表示

■センシング技術による五感判定の自動化■

人間の目や耳では見落としがちな微細な異常も、高度なセンシング技術により自動的に判定します。これにより、製品の品質向上や設備の安全管理を一層強化します。

設備センシング



- ・無線センサを設備に取り付け、常時データを取得することで、状態監視を行っています。
- ・設備の異常を早期に発見し、修理や交換のタイミングを最適化することができます。

画像解析



- ・カメラで撮影した画像をコンピュータが分析する技術で画像解析を使うことで、人間の目には見えにくい細かな欠陥を検出、評価することができます。
- ・この技術を品質外観検査や設備の劣化診断などに適用することで、人間の主観や疲労に影響されずに、一定の基準で判定することができます。

■新入社員研修■

広島事業所では、学生生活から社会人生活への円滑な移行を第一義として、配属前に新入社員研修を実施しています。新入社員研修では、「社会人としての自覚」「心構え・マナー」「事業所規則・安全に作業を行う(怪我をしない、させない)のために必要な「知識」・「技能(スキル)」・「基礎態度」を理解する」と共に、安全に対する意識を高め、安全に作業を行うための基本行動・基本操作の習得を図ることを目的としています。研修は座学だけではなく意見交換をするグループワークや、不安全な行動をしない、怪我をしないために安全実技体験も行っています。



集合教育の様子



グループワークの様子



フルハーネス実技講習の様子

■熱中症防止のための展示会開催■

地球温暖化の影響による異常気象などで、近年では5月頃から30℃以上の真夏日になる日も増えてきています。急に外気温が上がると体が慣れていないので、熱中症になりやすくなります。広島事業所では過去10年間で25件の熱中症が発生しています。

熱中症を防ぐため、メーカーの方にご協力いただき「熱中症製品展示会」を開催しました。開催当日は、製造部だけでなく、協力会社も含めた大勢の方が会場に足を運び、実際の製品を試したり、メーカーの方から直接話を聞いたりでき、好評でした。

展示製品のレンタルや、事業所内で熱中症製品の水平展開も実施しながら、熱中症防止に努めています。



展示製品の見学の様子



メーカーによる説明の様子



熱中症予防製品の試着の様子

■個の健康支援と働きやすい職場づくり■

■三菱ケミカルグループにおける健康経営について■

MCGグループの健康経営

- 定義: MCGグループのPurpose実現を担う従業員一人ひとりのWell beingの向上を健康の側面から支援して組織と人の活躍を最大化する取り組み
- 基本方針:
 1. 私たちは、Purpose実現に向けて、自らが健康であるように努めます
 2. 私たちは、一人ひとりが自らの力を最大限に発揮していきいきと働くことができる職場づくりを進めます
- 取り組みの3本柱:
 1. 健康的な生活習慣
 - ・健診結果に基づく適切な行動、保健指導、重症化予防、がん検診促進、禁煙、運動・睡眠・食事の改善 等
 2. こころの健康
 - ・高ストレス者対応、ストレスマネジメント力、セルフケア・ラインケア 等
 3. 働きやすい環境
 - ・治療と仕事の両立、女性の健康、転倒労災防止、受動喫煙防止、化学物質管理、労働時間管理・ワークライフバランス、コミュニケーション促進 等

2023年8月「MCGグループの健康経営」が新たに制定されました。
この考え方に基づき、従前から取り組んできた「従業員の皆さんが心身ともに健康でいきいきと働くことが、生産性と創造性を高め、企業価値を高める」という理念はこれからも変わることはなく、今後は“One Company, One Team”の考え方の下、MCGグループの健康経営として展開していきます。

■年齢・性別等にかかわらず誰もが働きやすい職場づくりへの取り組み■

広島事業所では「年齢・性別等にかかわらず誰もが働きやすい職場づくり」に取り組んでいます。

今年度の労働衛生週間では週間イベントの一つとして、加齢や妊娠などによる身体的変化の疑似体験を通して、参加者ひとりひとりが多様な「個」について知り、多様な人材が自分らしく働ける「誰もが働きやすい職場づくり」について考えるきっかけづくりとして「ダイバーシティ体験会」を行いました。



多くの従業員が参加し、にぎやかな雰囲気の中、視覚・聴覚の変化、関節の動かしにくさ、筋力・体力低下、妊娠による身体変化を疑似体験をしました。

参加者からは「実際に体験することで、まずは自分たちが自分事として考える機会になると思った」「体験を通じてわかったことを職場で活かしたい」などの意見が挙がりました。

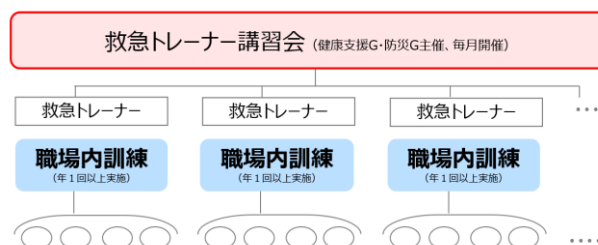
多様な人材を知ることを通して、自身の更なる健康管理や職場の安全管理などに活用できるよう、これからもさまざまな企画をしていきます。

■職場主体の心肺蘇生法訓練(救急トレーナー講習)■



救命講習の様子

事業所で養成した“救急トレーナー”が中心となって職場単位で実技訓練を行っています。コロナ禍で対面訓練を行えない間は動画コンテンツによる自己学習を推奨し、現在は従来通り実技訓練を再開しています。



もしもの時の安心、安全への備えとして今後も事業所全体で取り組んでいきます。

■産業医の役割と日々の活動内容■

広島事業所では、労働安全衛生法に基づいて専属産業医を選任しています。産業医は常時勤務しており、健康診断やストレスチェック等の法で定められる業務を基本として、事業場における従業員の健康管理や職場の労働衛生管理について医学的な専門的知識を要する事項への助言・指導を行っています。広島事業所は、産業医が事業所専属の常勤医であることの強みを活かし、日常的に産業医と連携をとりながら、事業所の施策や抱える課題に対する取り組みを実施しています。

■健康保持増進や職場環境改善に関わる医学的視点からの支援■

産業医は、事業所・職場に向けて作業環境管理・作業管理・健康管理に関する助言・指導を行うほか、従業員個人にも門戸を広げ、各方面に労働衛生に係る専門的助言を行っています。

産業医による労働衛生教育、健康教育の機会も定期的に設けており、毎月の安全衛生委員会における衛生講話をはじめ、月間・年間行事の中で講演会等を実施しています。



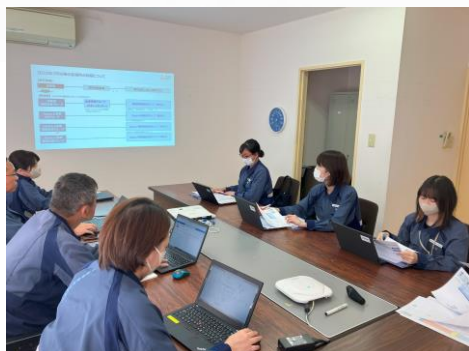
全国労働衛生週間における従業員向け講演会の様子
(会場・オンラインのハイブリッド形式)

■産業医による職場巡視■

自律的な職場環境改善、特に転倒労災に繋がるリスクの洗い出しと未然防止に注力しています。

産業医による職場巡視の際は、衛生管理者や産業看護職をはじめとした産業保健スタッフが中心となり、職場環境や業務の実態を産業医と共有し、産業医による医学的視点に基づいた助言を受けながら、職場環境の改善や適正配置を行う上での課題を把握します。

多職種で連携し、安全・安心な職場づくりに必要な円滑なコミュニケーションの実現をめざしています。



職場巡視前のミーティングの様子



シャワー室のチェックの様子



執務状況の確認の様子

■地域医療連携■

健康問題を有する従業員の就労支援や、労働災害を含む就業に関連する健康障害への対応には、地域の医療機関との連携が不可欠です。事業所の産業医と医療機関の主治医が互いに就業や診療に関わる情報を共有し、より円滑で有機的な連携をめざしています。

■臨床研修医教育への協力■

地域の総合病院の医師臨床研修に係る協力施設として、事業所における産業保健研修の受け入れを実施し、産業医の業務を学ぶことを通じて働く人やその環境に目を向けた関わり方を学ぶ機会を提供しています。地域医療を担う医師の育成に関わることにより、地域医療の発展に資することをめざしています。



臨床研修医による従業員教育の様子

8 化学品・製品安全について

■品質保証の取り組み■



広島事業所では品質データの信頼性向上を図るため、検査の自動化を推進しています。背景としては近年ニュースなどで見かける企業の品質データ改ざん等、人が介在することで改ざんに繋がるケースが多いため、自動化を進めることで不祥事を防止する狙いがあります。例えば、製品の色味を人が見て判定する方法を見直し、測定装置を活用する事で色味を数値化して判定する方法に切り替える検討などに取り組んでいます。

品質保証を全員が担う

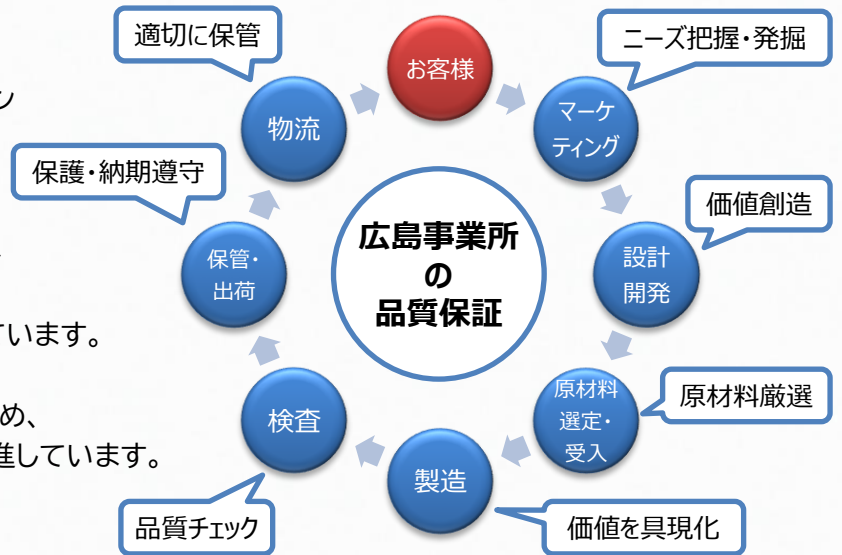
設計、製造、検査、物流など、サプライチェーンに関わる全員が品質保証を担っています。

品質保証のしくみを運用

品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001や、航空宇宙の品質マネジメント規格であるJIS Q 9100の認証を取得し、運用することで、お客様に安心をお届けしています。

品質データの信頼性向上

検査では品質データの信頼性向上を図るため、検査自動化や、データの自動処理などを推進しています。



9 物流安全について

■製品の物流を安全に行うために■

広島事業所では、協力会社の皆様と「物流部会」や「船舶安全協議会」を定期的に開催しています。事業を行う上で原燃料等の入荷や製品の出荷が伴いますが、それらを安全・安定に行う為には、運搬に係る協力会社との連携が必要不可欠です。各社と安全に関する取り組みの情報交換や共有をし、安全運行とは何か？安全作業とは何か？など一緒に考える必要があります。

2023年度はコロナ禍も落ち着いてきたことから、広島事業所の海上輸送部分に係わる22社の協力会社と数年ぶりの対面による「船舶安全協議会総会」を開催しました。協議会の中では、近年の事故事例を基に安全対策について情報を共有し、一緒に考える事で、今後の事故防止に繋げています。総会後は産業医による【高齢労働者の安全衛生対策】の講話や岩国海上保安署長による船舶における法令や注意事項などの講演も行っていました。

広島事業所は海に面した事業所であり、事業を行う上で、海上輸送はまさに生命線であり重要な役割を果たしています。皆様に安全・安心・安定をお届けできるように、これからも協力会社と連携し、【より良い広島事業所】となるよう努めます。



船舶安全協議会総会の様子



産業医による講演の様子

10 地域の皆様と共に

広島事業所では、地域との共生を掲げ、近隣地域の皆様と連携し各種活動に取り組んでいます。

■らんらんカレッジ■

大竹市では子どもたちに様々な体験を通じて学びや心の豊かさを育んでもらおうと、例年夏休みに「らんらんカレッジ」を開催しています。当社はその趣旨に賛同し、若手社員を中心に工作教室を開催しています。

2022年度は子ども20名を対象に、アクリペット™で作るきらきら宝石箱を作製しました。子どもたちはカラフルなアクリペット™ビーズに興味津々で、デザインやアクリペット™ビーズの貼り付け作業に夢中で取り組んでいました。



宝石箱を作製する様子

アクリペット™

広島事業所で製造しているメタクリル樹脂。最高度の透明性を有し、耐候性、耐薬品性、硬度、外観など数々の優れた特性を持つプラスチックです。

■三菱ケミカル杯スポーツ大会■

広島事業所では地域スポーツ振興を目的に、近隣のスポーツチームを招待し、スポーツ大会(ゲートボール大会、少年野球大会、少年サッカー大会)を開催しています。2022年度は、各大会を3年ぶりに開催し、近隣の多くのチームにご参加いただきました。参加された皆様は、元気はつらつとプレーされ、日頃の練習の成果を発揮されていました。



ゲートボール大会の様子



少年野球大会の様子



少年サッカー大会の様子

■清掃活動■

広島事業所では、海洋プラスチックごみ問題をふまえた社会貢献活動として、GSHIP主催のボランティア清掃活動に有志で参加しています。また、当社で使用する工業用水の取水設備がある大竹市元町4丁目の自治会で実施される川の清掃活動にも毎年参加しています。加えて、2023年4月に労使共催による事業所周辺一斉清掃を実施しました。環境問題への取り組みとして、今後も継続して実施してまいります。



川の清掃の様子



労使による清掃活動の様子



環境月間に係る工場周辺地域一斉清掃の様子

■三菱ケミカルの秋祭り■

地域と当社、地域と地域がお互いのことを知り、繋がるきっかけの一つとしたい、すべての参加者に大竹をより好きになってもらいたいという想いから、2022年11月20日に「三菱ケミカル秋祭り」を開催しました。周辺地域の飲食店の皆様にご協力いただき、大竹の名産を使用した飲食・物販の出店や当社製品を使用した工作体験教室、ゲームコーナーを開催しました。

また、本イベントは「持続可能」を方針として掲げており、環境に配慮した取り組みとして、リユース食器を活用しました。コロナ禍のため事前予約・時間指定入替制での開催となりましたが、当日は多くの皆様にご来場いただきました。

引き続き地域と当社が繋がっていきけるようなイベントを企画してまいります。

三菱ケミカル KAITEKI フェスタ2022
11月20日(日) 11時～15時 雨天中止
会場：三菱ケミカル広島事業所 レイオングラウンド
※観覧券式・入替制 ※詳細はタイムテーブルをご覧ください

飲食・物産品コーナー
大竹市の特産品を使用した美味しい食事や、珍しい！贈品も多数用意！
※当社グループのクッキングが手始めに、M&Dの社員が作り手です。
※大竹市の特産品を使用した美味しい食事や、珍しい！贈品も多数用意！

ものづくりコーナー
三菱ケミカルが誇る「アクリル樹脂」を使用した工作体験教室！
※大竹市の特産品を使用した美味しい食事や、珍しい！贈品も多数用意！

ゲームコーナー
子どもから大人まで楽しめるゲームや、クイズ大会など！
※大竹市の特産品を使用した美味しい食事や、珍しい！贈品も多数用意！

入場券	実行委員会券	当日利用券
1 10:55	入場 11:00 ▶ 退場 13:00	
2 11:25	入場 11:30 ▶ 退場 13:30	
3 11:55	入場 12:00 ▶ 退場 14:00	
4 12:25	入場 12:30 ▶ 退場 14:30	
5 12:55	入場 13:00 ▶ 退場 15:00	

入場には予約が必要です。
【予約受付期間】11月19日(土)まで

【予約方法】
① QRコード読み取り・必要事項入力
② QRコード読み取り・必要事項入力
③ QRコード読み取り・必要事項入力

【当日受付】
① QRコード読み取り・必要事項入力
② QRコード読み取り・必要事項入力
③ QRコード読み取り・必要事項入力

【当日受付】
① QRコード読み取り・必要事項入力
② QRコード読み取り・必要事項入力
③ QRコード読み取り・必要事項入力

三菱ケミカル(株)広島事業所 総務課 電話 TEL:0824-62-4181
※当日は入替制となります。当日は入替制となります。当日は入替制となります。



出店の様子



ゲームコーナーでの様子



リユース食器回収の様子



食事風景

■大竹市内子どもたちの工場見学会■

大竹市栄公民館と協力し、大竹市内の小学生を対象とした親子で楽しむ工場見学会を実施しました。事業所一周見学ツアー、当社が所有する化学消防車の乗車体験、化学実験・工作と様々な企画を行い、30組の親子にご参加いただきました。



消防倉庫前での集合写真



親子で化学実験の様子

■大竹中学校「働く人から学ぶ会」出前授業■

大竹中学校では、「大竹市で働く人から直接話を聞き、勤労観や職業観を身に付け、地域への愛着や誇りをもって欲しい」という思いから、2022年度に「働く人から学ぶ会」が実施されました。当社はその目的に賛同し、当社の製品・取り組みや働き方、仕事のやりがい、大竹市で働くことへの思い、中学生に向けたメッセージ等を2年生の皆さんに向けてお伝えしました。



出前授業の様子



製品を実際に触って確認している様子

■玖波小学校「科学の日」出前授業■

玖波小学校において、「子どもたちに科学に興味を持ってほしい」という願いから、科学について学ぶ「科学の日」が開催され、当社は5・6年生に向けての出前授業を実施しました。研究で用いられる技術である生物模倣についてクイズを交えながら説明した後、蛾の目を模倣して作られたフィルム「モスマイト™」を使用して写真立てづくりを行いました。子どもたちは授業に真剣に取り組んでおり、生物模倣クイズは非常に盛り上がりました。モスマイト™を実際に見た際は、自分の顔が光に反射して映り込まず、浮いているように見えることに驚いていました。



「モスマイト™」について説明する様子



「モスマイト™」紹介の様子



写真立てを作成の様子

モスマイト™
 広島研究エリアで開発した表面に微小な凹凸を設けることで光の反射を抑えることのできるフィルムです。

■小方小学校PTCA出前授業■

小方小学校より、PTCA(親、学校、地域)活動に係る出前授業の依頼があり、「地域の子どもたちへケミカルの歴史や活動紹介を通して、環境問題に対する働く人の想いを伝える」ことを目的とした出前授業を実施しました。製品を通して社会に貢献していること、広島事業所と地域との関わりや働く人たちの工夫・想い・環境への取り組みを簡単な化学実験を通して知ってもらい、地球環境問題を身近に感じてもらえるような活動を行いました。



オレンジジュースのろ過実験の様子



pHを調べる実験の様子

■ストーンアート■

大竹市暴力監視追放協議会では「暴力のない明るく住みよいまちづくり」の推進のため、暴力追放意識のシンボルであるストーンアート事業を行っています。広島事業所はその趣旨に賛同し、同協議会が主催するJR玖波駅西口ロータリーへの巨石アート新設事業に参画しました。

近隣自治会、玖波中学校美術部、市内企業の皆様と協力し、かえるをモチーフとした巨石3体・石板2枚・アクリル板1枚のアートを制作しました。



ストーンアート制作の様子



完成したアクリル板アート・ストーンアート



アクリル板アート制作の様子



■地域懇話会■

地域の皆様へ事業所の活動についてご説明し、ご意見・ご要望を承ることで改善につなげることを目的に、年に1度、事業所見学を含めた地域懇話会を開催しています。

なお、2020年度、2021年度に引き続き、2022年度においても新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、本報告書の送付で広島事業所の活動を知っていただくこととしました。



地域懇話会の様子



工場見学の様子

■災害備蓄食糧寄付■

広島事業所では、地震等の自然災害発生時に備え、災害備蓄品の管理をしています。

2022年12月、広島事業所で保有し、期限が迫った災害備蓄用食糧3,000食分について、大竹市社会福祉協議会に寄付を行い活用していただきました。

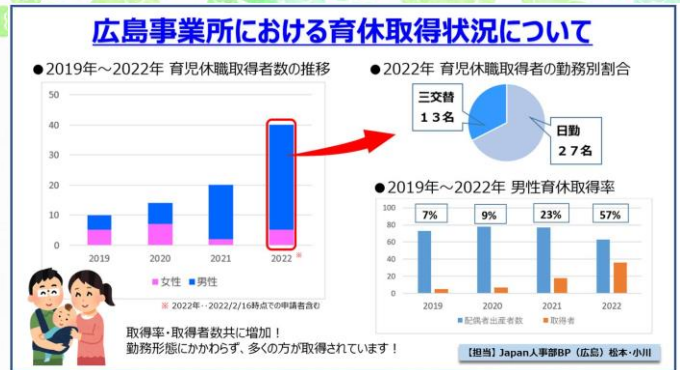


11 事業所内活動の紹介

■育児休職取得推進に向けた取り組み■

広島事業所では、性別を問わず誰もが育児休職(以下、育休)を取得できるよう、育休取得推進に向けた取り組みを行っています。

育休取得者数は年々増加しており、2022年度は、前年比で男性の育休取得者数がほぼ倍増となりました。配偶者出産者数に対する取得比率23%→57%へ大幅増になっており、性別・勤務形態を問わず、多様な従業員が育休取得できる環境が整ってきました。



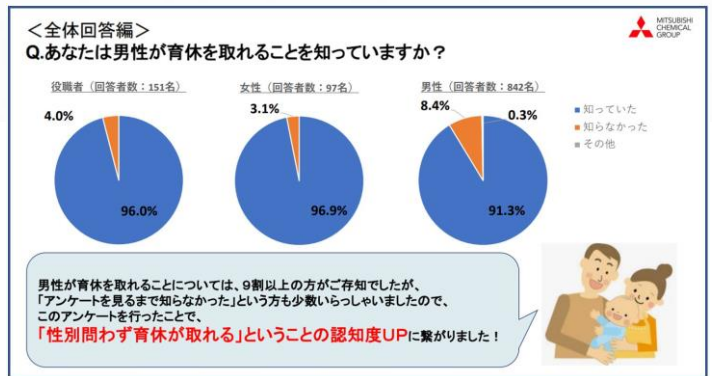
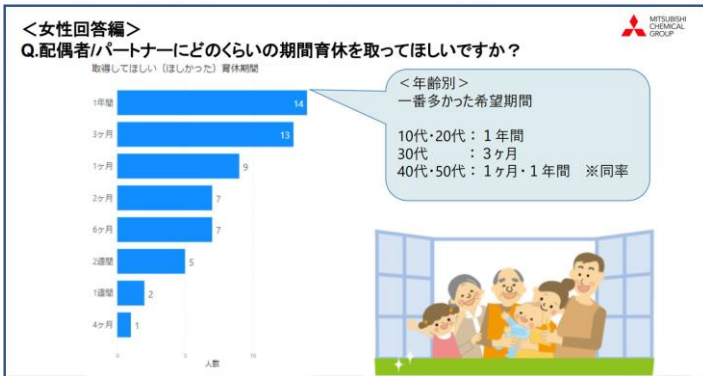
■これまでの主な推進活動実績■

・従業員に分かりやすい制度・手続き説明資料の作成

育休を取りたくても、制度が分かりにくい、手続きが難しそう、育休中の収入が不安、誰に相談したら良いか分からない、といった様々な疑問・不安を持つ従業員向けに、「育児休職手続きリスト」「職制向けマニュアル」「Q&A集(お役立ち情報)」を作成しました。

・育休取得に関する意識調査と結果の周知

事業所内の従業員の育休に対する率直な意見をアンケートで調査し、結果を事業所内に公開しました。情報公開により、従業員の育休取得に関する認知度UP、誰もが育休をとることが当たり前な雰囲気の醸成につながっています。



・育休取得者とその上司へインタビュー

育休取得を考えている従業員は、仕事の引継ぎや、育休中の生活など様々な不安を抱えます。

そこで実際に育休を取得した方とその上司を取材し、育休に入るまでの仕事上の工夫や、育休中の生活や感想などを記事にしてPRしています。誰もが安心して、さらに取得しやすい環境づくりにつながっていきます。

■実際に育休を取得された方の声■

◆育休から復帰する時に不安はありましたか？

育休明けもしばらくテレワークをしたので、徐々に家庭と仕事の境界(時間配分)をコントロールでき、スムーズに復帰することが出来ました。

妻の経過が良好だったのも幸運でした。

◆育休を取得したことによって何か変化を感じられましたか？

子供と過ごす時間は大切だと頭では理解していましたが、実際に毎日一緒に過ごすことで、言葉に表現できない充実感を体験出来ました。家族を大事にしたい気持ちがより強くなりました！



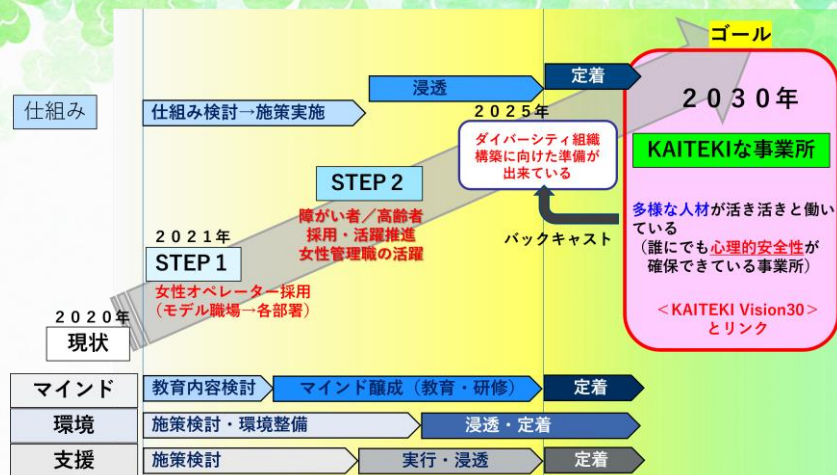
■女性三交替勤務者採用■

多様な人材が生き生きと働いている「KAITEKI」な事業所をめざすため、ダイバーシティ推進による職場強化・事業所競争力強化の施策の一つとして、2021年度より女性三交替勤務者の採用を開始し、2023年度現在、8名の女性三交替勤務者が活躍しています。

女性交替勤務者が配属された職場では、女性からの目線を取り入れた職場改善を推進しており、写真のような重量があっても容易に運べない物でも、電動リフターを導入することにより、一人で安全に運搬作業ができるようにするなど工夫や改善を重ねています。

このように、重筋作業の軽減や職場環境が改善されることにより、労災の未然防止の他、定年延長でも長く安全・安心に働くことができる、性別・年齢に関係なく働きやすい職場づくりに繋がっています。また、ハラスメントなどのコンプライアンス意識も向上し、「職場の雰囲気良くなった」といった声も上がり、良い効果が生まれています。

ダイバーシティ推進ビジョン（広島）



電動リフターで運搬作業をする様子

■事業所内PR活動■

■ケミカルを好きになってもらい隊■

「ケミカルを好きになってもらい隊(通称:好き隊)」は、広島事業所内の横の繋がりを強固にすべく“ケミカルに関わる全てのみなさんの一生懸命な姿を多くの人に知ってもらう”を目的に活動しています。中期計画と連携した活動として「相互啓発活動」がありますが、普段の会社生活では知り得ない他部署の出来事などを好き隊の記事として発信することで、同じ会社の仲間同士がお互いを知り、認め合い、尊重し合うことで、互いに助け合えると信じて活動しています。



「大竹市内子どもたちの工場見学会」の取材風景



「好き隊」紹介スライドの一部

■ケミカルを好きになってもらい隊 掲載記事■

デジタルサイネージ、会社掲示板、場所掲示板「広島サイト」など電子版で日々情報発信を行っています。

2022年度 稲荷神社例祭

祭事を開催するにあたり、総務人事G担当者数名でのぼり、しめ縄、お供え品、テント設置など準備に抜かりなく作業されていました。

当日は、例年ない天候不良に見舞われましたが、幸いなことに大粒の雨に変わることなく、多くみなさまに参列して頂き一連の儀式を無事執行することができました。

皆さんの人にケミカルを好きになってもらいたい

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）
取材チームへの問合せや取材のご要望は、企画管理部企画管理Gまで

薬師川清掃活動(基盤製造1部)

実施日：2022年6月5日(日)：元町4丁目水源池ポンプ場横

⇒ 続きは、拠点サイトにてご覧ください

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊(広島事業所)

2022年 労働衛生週間 講演会 2022年10月5日~7日

皆さんは、昔でもなる可能性が少いです

- 労働安全衛生法違反 65.3%
- 労働安全衛生法違反 26.7%
- 労働安全衛生法違反 51.2%
- 労働安全衛生法違反 17.9%

⇒ 続きは拠点サイトにてご覧ください。ポータル掲示板と講演会の動画も公開されていますので、是非ご覧ください！

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）

定修を知ってもらいたい!!

安全+第一

定期修繕工事(通称:定修)のことを皆さんご存じでしょうか?
定修とは、安全に操業するための機器の拠点検です。

現在、2年に1度の「化成品大定修」がいよいよ始まろうとしています。定修に関わる沢山の皆さんの様子や様変わりしていくプラントの様子等をサイネージでお伝えさせてもらう予定です。

第一弾として…
化成品課・合成第一課の工事前のS/D(停止作業)・移行作業の様子をご覧ください!!

皆さんの人にケミカルを好きになってもらいたい

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）
取材チームへの問合せや取材のご要望は、企画管理部企画管理Gまで

安全パトロール風景

火気使用期間中は毎日パトロール実施しています
協力会社(統括・元方) MCC(製造部・設技部・環安部)

KY(危険予知)は、しっかりやっているか!

工事安全確認書、安全指示書に記載すべき内容が網羅されているか!

安全第一で作業をしています。危険ですべての作業を中止し、安全を確認してから再開します。

許可を得て、安全な場所から撮影しています。

皆さんの人にケミカルを好きになってもらいたい

取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊（広島事業所）

化成品大定修 特集

令和元年 9月10日頃から「ドローン」による点検を実施しています

化成品大定修 特集 安全第一 定修を知ってもらいたい!!

*第三弾号 ~DX編~

化成品大定修 特集

9月からデジタルサイネージで4回に渡り定修の様子を発信させていただきましたが如何だったでしょうか? 今回、化成品課・合成第一課五合成プラントでのS/Uの様子などを取材しております。是非ご覧頂き、定修に関わる多くの皆さんの頑張りを御覧いただければ幸いです。

化成品大定修 特集 安全第一 定修を知ってもらいたい!!

*第四弾号 ~合成第一課酸回収編~

2022/9~12「化成品大定修 特集」定修を知ってもらいたい!!

定修を知ってもらいたい!!

化成品大定修 特集 安全第一 定修を知ってもらいたい!!

⇒ 続きは、拠点サイトにてご覧ください
取材チーム：ケミカルを好きになってもらい隊(広島事業所)

謹んで新春のお慶びを申し上げます

令和5年 元旦

⇒ 続きは拠点サイトにてご覧ください。

2023年好き隊も頑張ります!今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2023年3月より

☆ (ケミカルを) 好きになってもらい隊活動 今後の進め方について

その1：部署紹介投稿を募集します!

⇒ 例) MCGグループ：部署紹介投稿へ

- *「興味ある」とご回答頂いた課員数が多い課を優先して取材します。
- *その際に「興味ある」とご回答頂いた課員と一緒に記事作成します。

その2：好き隊♡ちよっ好き隊♡のメンバーを随時募集!

- *拘束時間や分量は、取材によって変わりますのでご提示が大変難しいです。どんなことしているのかなど、一度体験されてみることも可能です。まずは一緒に活動してみませんか? ご検討ください。

従業員のみみなさんのご協力が必要です! 今後ともよろしく願います!!

興味あるなら行ってこい! 応援してるぞ!

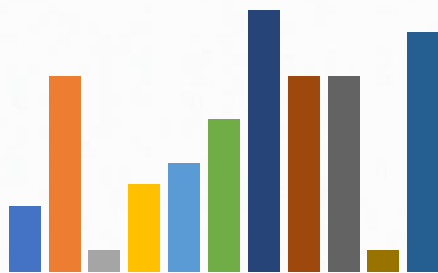
自部署紹介記事を作成してみるか!

12 最後に

■皆様からのご意見・ご感想■

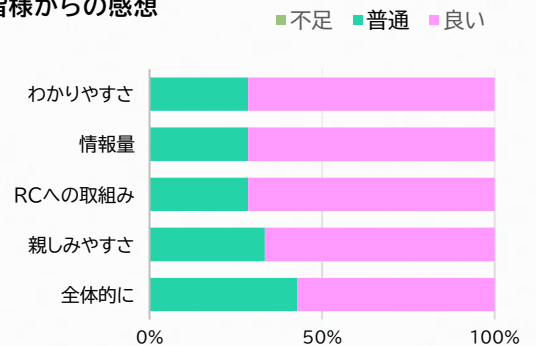
昨年発行した報告書に対し、皆様からご意見・ご感想をお寄せいただきました。貴重なご意見を参考に、より良い活動報告書をめざします。

本報告書の中で、
印象に残った・興味を持った内容

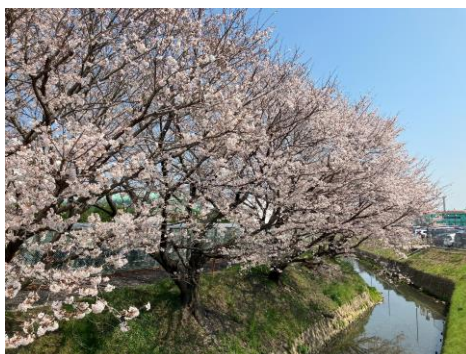


- 1. 事業所長メッセージ
- 2. 事業所概要
- 3. 基本方針
- 4. 広島事業所RC方針
- 5. 「O' Take現場力25」活動
- 6. 事業所教育方針
- 7. 安全文化の向上
- 8. リスク管理・危機管理強化
- 9. サステナビリティ・マネジメント
- 10. その他の活動
- 11. 地域の皆様と共に

皆様からの感想



- 「品質保証」「化学品・製品安全」の取組みを「その他の活動」とせず、項目として取り上げてはどうでしょうか。
- スマート保安技術の活用例について、特に興味深く拝読させていただきました。
- 危険体験教育の取入れ、取組は大変良いことだと思います。これからも安全、安心、安定操業に取り組みご発展をお祈りします。
- 新型コロナウイルスの影響により、意見交換を実施出来ず非常に残念でした。安心して対面での意見交換でお会い出来る日を楽しみにしています。今後も安全・安心な工場をめざして取り組んでいただきたいと思います。



広島事業所内の桜

この度は、当事業所のレスポンシブル・ケア活動報告書2023をお読みいただき、ありがとうございました。今後の活動と報告書作成の参考のためアンケートにご回答いただけますと幸いです。こちらのURLまたはQRコードからWebにて回答いただけます。たくさんのご意見・ご感想をお待ちしています。

<https://forms.office.com/r/zJYz2RUTzf>





■memo■



三菱ケミカル株式会社 広島事業所

〒739-0693 広島県大竹市御幸町 20-1
環境安全・品質保証部 環境グループ
TEL : 0827-52-4217 FAX : 0827-53-8503

三菱ケミカルホームページアドレス
URL : <https://www.m-chemical.co.jp/>

